

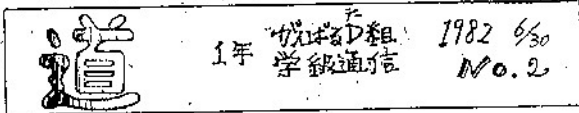
「はだしのゲン」と私

(1)

弁護士 西村 純一

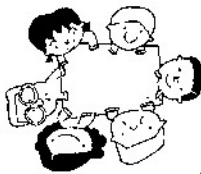
まずこの記事の表題を有名作家のその様なものにしましてすみませんとお詫びいたします。「ゲン」にまつわり最近起こったことがいろいろとあり、これを書きたいと思うと、うまくまとめた表題がこれくらいしか思いつきませんでした。「ゲン」との出会いは30年以上も前に私が中学校の教員をしていた時に始まります。戦争や原爆について考える平和教育の中でベテランの先生

が新米の私に教えてくれたのだと思います。この本の中身の深さと面白さに圧倒された私は2セットくらいを自分で買って自分が担任している1年D組生徒全員を対象にまわして読みました。その時に出した学級通信に思い入れがあったので、日本から持ってきた「ゲン」の本の中に今でも入っていました。1982年6月30日となっています。たかが一枚の学級通信ですが、これだけ



☆ 最近のおわりの会で感じたこと

- ・誰とは言わないけど、同じ人ばかりが毎日のように反省している。前日の反省が、次の日に生かされていないように思います。
- ・おわりの会で、問題点を話し合うのは、クラスみんなで、ひとり、ひとりのことを考えるためです。みんなが思口を言うためでは、決してありません。「そんなことしてたら、おわりの会で言うぞ」というような言い方は、何のために「おわりの会があるかわかっていない人の言うことだと思えますが、どうですか？」



☆ 『はだしのゲン』 みんなで読みきろう!

- ・今、D組では、「はだしのゲン」を、みんなで読むとりくみがおこなわれています。戦争や原爆が、人々に与える悲惨さを、わかりやすく、しかも、おもしろく描いた、



すばらしい作品です。先生の少ないボーナスをはたいて4冊、みんなのキャンで3冊を買って、なんとか全巻そろいました。しかし、みんなで読むには、少な過ぎるので、早くまわして下さい。何度も、読み返す。相うちのある本なので、自分で買える人は、買って下さい。(そして、みんなにまわしてもらえれば、ありがたい)

原爆を主題にした漫画を描くのは、なかなか、子どもは、素直に何が真実かを捉え、めてくれません。ですから原爆の歴史を、リテラクスしながら、子供が作品の中に、ついていけるようにと念じて描き続けました。その点から、ほんとうのものをつかんで、戦争とは、空襲とはをわかっていなければならない、と、中沢啓治さん

☆ 今日から、道徳、H.R.の時間を、使って、戦争や原爆のことについて勉強してゆきます。次のようなことに注意しながら「ゲン」を読んで下さい。

- ①戦争中の食べものは? ②なぜ、戦争がはじまれば、戦争に反対できなくなるのか ③当時、学校では、戦争をどのように教えていたか
- ④政敵、何、どんな生活だったか
- ⑤ゲンの兄、浩二は、なぜ海軍をみずから志願したか。
- ⑥戦争中、天皇はどのように思われていたか。⑦親は自分の息子が死んでいくことを、ほんとうに、名誉と思っていたか ⑧特攻隊とは何か…など。



年数が経つとちょっとした資料かなと自費してみました。生徒たちに向けてのこんなコメントがありました。

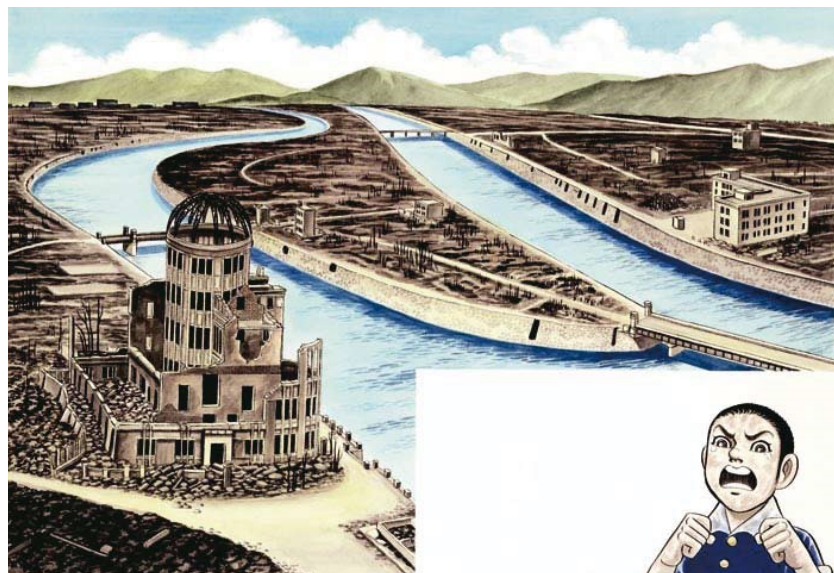
「次のようなことに注意しながら「ゲン」読んで下さい。①戦争中の食べ物は？②なぜ戦争がはじまれば戦争に反対できなくなるのか？③当時、学校では戦争をどのように教えていたか？④疎開って何、どんな生活だったか？⑤ゲンの兄、浩二はなぜ海軍を志願したか？⑥戦争中、天皇はどのように思われていたか？⑦親は自分の息子が死んでいくことを本当に名誉と思っていたか？⑧特攻隊とは何か、など」

「ゲン」は私がこちらへ来た頃にオークランド総領事館主催の映画でも観たことがあります。数年前にこの「ゲン」を英語も含めたいろんな言語に翻訳して世界に広めようとしている「プロジェクトゲン」というボランティア団体を知りました。まずは日本語がほとんど読めない自分の子供に読ませたい、世話になっているキーウィにもよんで欲しいと何セットか購入し、オークランド図書館に寄贈しました。それほどの部数ではありませんが、地元の図書館や子供の通う学校などに時々寄贈して来ました。

最近2セット程取り寄せましたので、どこか適切なところがあればと思って前回の会報(6月7月号)の編集後記でお尋ねしました。その後オークランド補習学校のスタッフの方より下記の熱いメールを受け取りました。

『自薦で非常に申し訳ございませんが、できれば「はだしのゲン」をオークランド日本語補習学校へご寄贈していただくことは可能でしょうか？私自身、「はだしのゲン」は日本で読んだことがありませんでした。

しかし、以前、西村さんが「はだしのゲン」をオークランド図書館に寄贈されたと聞き、偶然ですが、取り寄せて読んでみました。そういうことがあったのは知っていましたが、なぜか絵で見るとまた違った感動を覚え、主人にも勧め、主人も毎晩仕事から帰ると読んでいた次第です。ここ補習校は日本語、そしてその文化、心を教えるところ。この本は英語版ですが、ぜひとも親御さ



ん、お子様たちに読んでもらいたい内容の本の一つです。私達が忘れてはいけない、必ず受け継いでいかなければならない大事なことのひとつだと思っています。』

オークランド補習校を寄贈先として私も考えたことはあったのですが、その名の通り日本語を教える所と理解していましたので、英語版は必要ないかと、それっきりになっていました。上記のメールをもらってから考えてみれば英語の方が読みやすい子供さんも結構いるだろうし、親には英語だけという人ももちろんいるでしょうと気が付きました。何と言っても日本との関係を持つ子供さんや親御さんがいらっしゃるのでは是非置いていただければと考え寄贈させて頂きました。

その後プロジェクト・ゲンに別件でメールをした時に上記のお話を伝えました。ボランティア活動をしている人は自分たちのやっていることへの反応は知りたいものだと考えたためです。ましてやポジティブなお話は彼らへの大きな励みになってくれるとよいと思い、ちょっと迷いながらも自分の学級通信も添付しました。

話はこれだけとっていたのですが、うれしい返事が返ってきました。プロジェクト・ゲンは日本語版も扱っていて「オークランド補習学校に日本語版を寄贈させていただきます。」と。したがってオークランド補習学校には日本語版と英語版が揃うことになりましたので、補習学校関係者の皆様はご自身の読みやすい方で是非読んでみて下さい。ご両親も読まれて子供さんと会話がはずめば何よりかと考えています。

補習学校に今関係されていない日本人会会員の方向けに私のオフィス(Rosebank Law Office Email: reception@rosebanklaw.co.nz)にも日本語版と英語版を置いて貸し出すことにしましたので、ご関心のある方は連絡下さい。

「ゲン」をまだ読まれたことのない方に

「ゲン」は中沢啓治氏が1973年から1985年にかけてご自身の経験をもとに広島原爆の日からその後数年間を10巻の漫画本に描かれたものです。検索されると沢山の情報がすぐにみつかりますのトライしてみてください。

子供をもつようになってから私が読んで印象に残ったのは原爆孤児の話でした。先日の東日本大震災ではいわゆる震災孤児が1567人(厚生労働省調べ)だそうです。中沢氏によるとおよそ6千人の原爆孤児が焼け野原にさ迷っていた。「おとなしい孤児たちは、栄養失調で死を待つだけでした。そこから生き残ろうと思えば、集団で群れを組んで盗みをはたらくか、一匹狼になって悪

の世界に入っていくしか道がないのです。」「(「はだしのゲンはピカドンを忘れない」岩波ブックレットNO.7)

ヤクザにとって原爆孤児は非常に使いやすかったそうです、なぜなら肉親はいないので「死んでもなんともないからです」。これらの原爆孤児を何とかしようという運動がやっと起きたのは何と原爆投下後7年経ってからで、それまでは何の救いの手もなかったそうです。これが当時の日本政府であったのです。

30年前から私は「ゲン」を何度か読んだと思うのですが、今年になって読み返しても気づかされる事柄がいっぱいあります。今の日本への重要なメッセージが沢山あると思いますので、これについては次号で記してみます。



OSAWA WINES

Hawke's Bay New Zealand

"Possibly one of the most interesting and unusual wine stories in recent times".

From the team at OSAWA WINES, we would like to thank everyone who has visited our store at Japan Day 2013.

It has been a memorable journey for us which we thoroughly enjoyed. We look forward to coming back again next year.

Prestigious boutique winery in the heart of Hawkes Bay with a unique combination of Japanese philosophies and New Zealand winemaking skills. High quality producers of Chardonnay, Pinot Noir, Sav Blanc, Pinot Gris and Gewurztraminer.

Rod McDonald (*NZ Winemaker of Year 2006*) succeeded with 3 Trophy Wins & 8 Gold medals, last year alone!!

Visit our website – to see what passions drove Taizo Osawa to travel the world in search of the perfect location for his winery, and how a local gifted winemaker has taken this special land to create internationally recognised wines of exceptional quality.

Free delivery* New Corporate accounts welcomed Not sold in supermarkets Trade enquiries welcome

大沢ワインズでは、ホークスベイの自然の恵みのもと自社畑で大切に育てた葡萄から、トップワインメーカー ロッド・マクドナルドが醸造する最高品質のワインをお届けいたします。シャルドネ、ピノノワール、ソーヴィニヨンブラン、ピノグリ、ゲヴェルツトラミネール、ロゼ、メルローカベルネソーヴィニヨンを取り揃え、Osawa Wines ウェブサイトには大沢ワインズの新しいイベントを満載しています。

OSAWA WINES

Ph: 06 874 9147 / 06 874 9050

358 Kereru Rd, RD1, Maraekakaho, Hastings 4171

Website: <http://www.osawawines.co.nz> Email: wine@osawawines.co.nz

NZで読める！

はだしのゲン Barefoot Gen

『はだしのゲン』は、中沢啓治による、自身の原爆の被爆体験を元にした自伝的漫画。同漫画を原作として実写映画やアニメ映画・テレビドラマも製作されている。戦中戦後の激動の時代を必死に生き抜こうとする主人公中岡ゲンの姿が描かれている。

日本語・英語版 (各 全10巻)
ここで貸出し中！

- ・オークランド補習校 (日・英)
- ・Rosebank Law (日・英)
- ・Auckland Libraries (英2セット)

